

☆ダイセル化学、LLNA-D A法、OECD/TGに収載

ダイセル化学工業はこのほど、同社が開発した汎用化学品の皮膚感作性を簡便に検出する方法であるLLNA-D A法が、日本オリジナルの安全性試験（代替法）として、日本で初めてOECDテストガイドラインに収載された、と発表した。LLNA-D A法は、感作性物質から誘導されるリンパ球の増殖の指標としてATP（アデノシン三リン酸）の測定を利用した評価手法。化学物質の皮膚感作性を調べるには、モルモットを用いたテストが汎用的に使われてきた。また、近年では、LLNA法が開発され、OECDテストガイドライン429として世界的に普及している。LLNA法は、従来の方法と比較し、大幅な試験期間の短縮と試験費用の低減が達成され、多くの化学薬品を評価する上で大変優れた手法だが、この方法はラジオアイソトープ（RI）を用いることで、RI実験区域を持たない新しいLLNA法として、ATPを指標としたLLNA-D A法を開発し、公平で、科学的な評価を受けてきた。同評価は、国内十七研究所で二回にわたる共同研究が実施され、LLNA-D A法の有効性が確認された。この結果を受け、日本の動物実験代替法の研究を推進している国立医薬品食品衛生研究所新規試験法評価室、JACVAMと欧米専門機関の協力のもと、厚生労働省からOECDへ新規試験法として申請がなされ、このほどOECDテストガイドライン442Aとして採択された。ダイセル化学は、化学薬品を取り扱う企業で、その皮膚感作性を明らかにすることは、より安全な製品を社会に供給する責任と、より安全な生産現場を実現し労働者を災害から守るという両面から、最重要課題の一つと捉えており、今後もより安全な製品の開発を目的に研究を進めていく考えだ。

---

掲載記事の無断転載を禁止します。著作権は科学企画出版社に帰属します。